

都市計画

名称 都市計画道路 園田豊中線

延長 800m

都市計画の経緯

昭和34年10月31日 都市計画決定

昭和36年 6月 1日 都市計画変更(町名地番の変更)

平成13年10月23日 都市計画変更(名称変更、車線数の表示)



都市計画道路事業

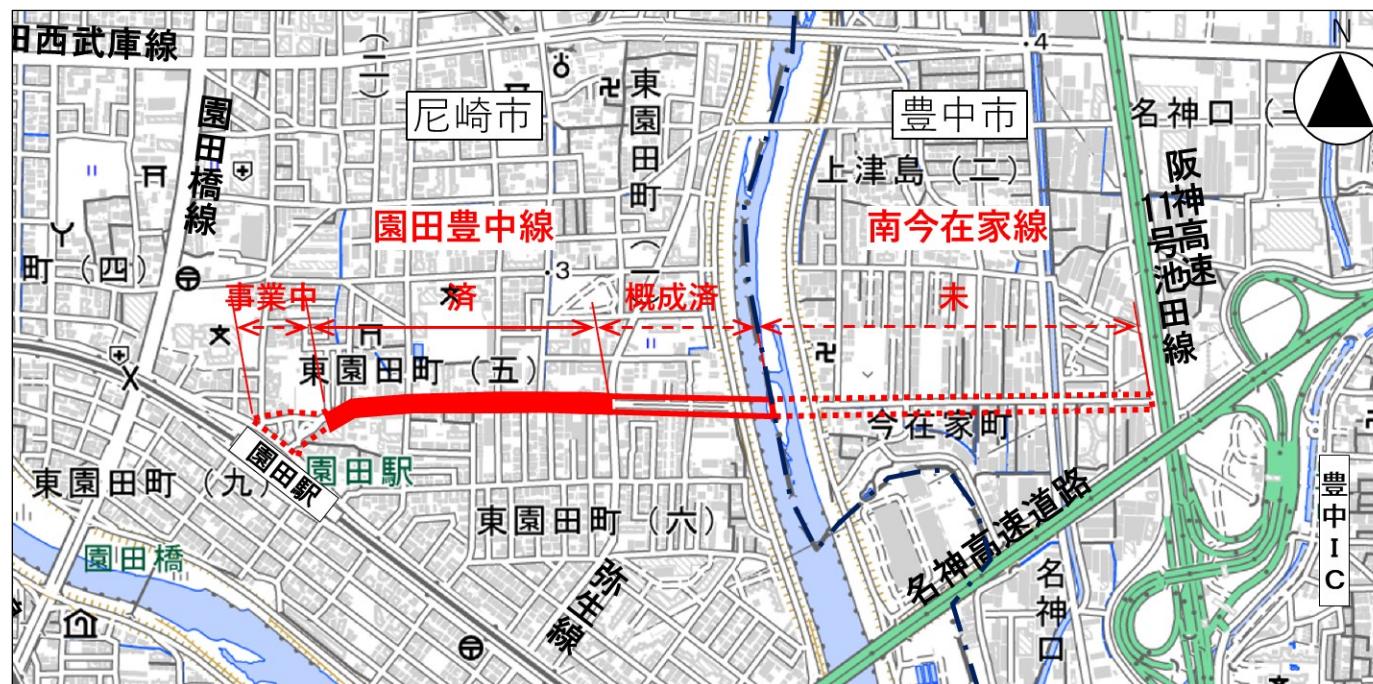
事業延長 201m 幅員16m

総事業費 約30億円(用地補償費約26億円 工事費約2億円 諸経費約2億円)

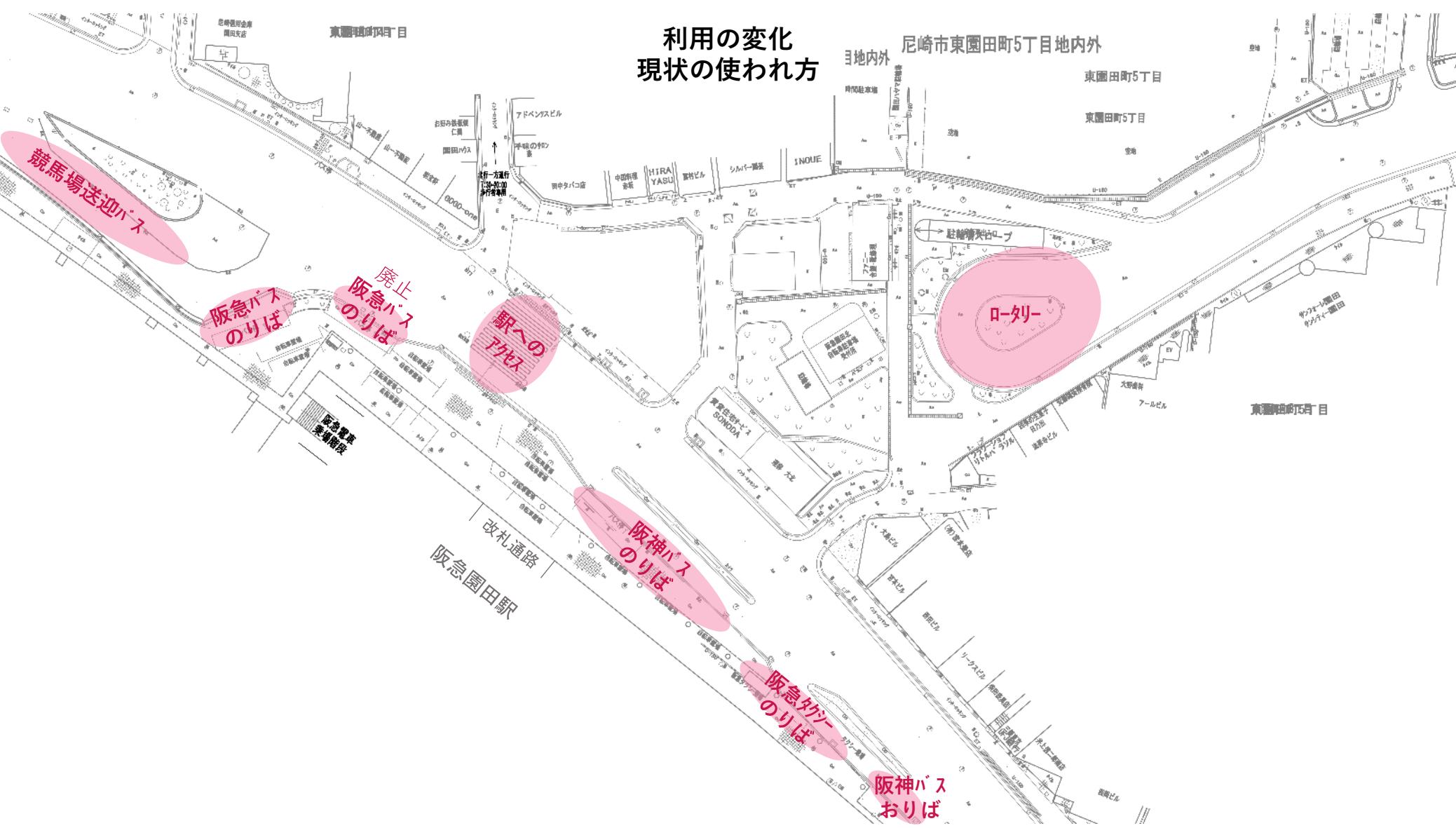
事業期間 昭和58年3月25日 ~ 令和8年3月31日(延長予定)

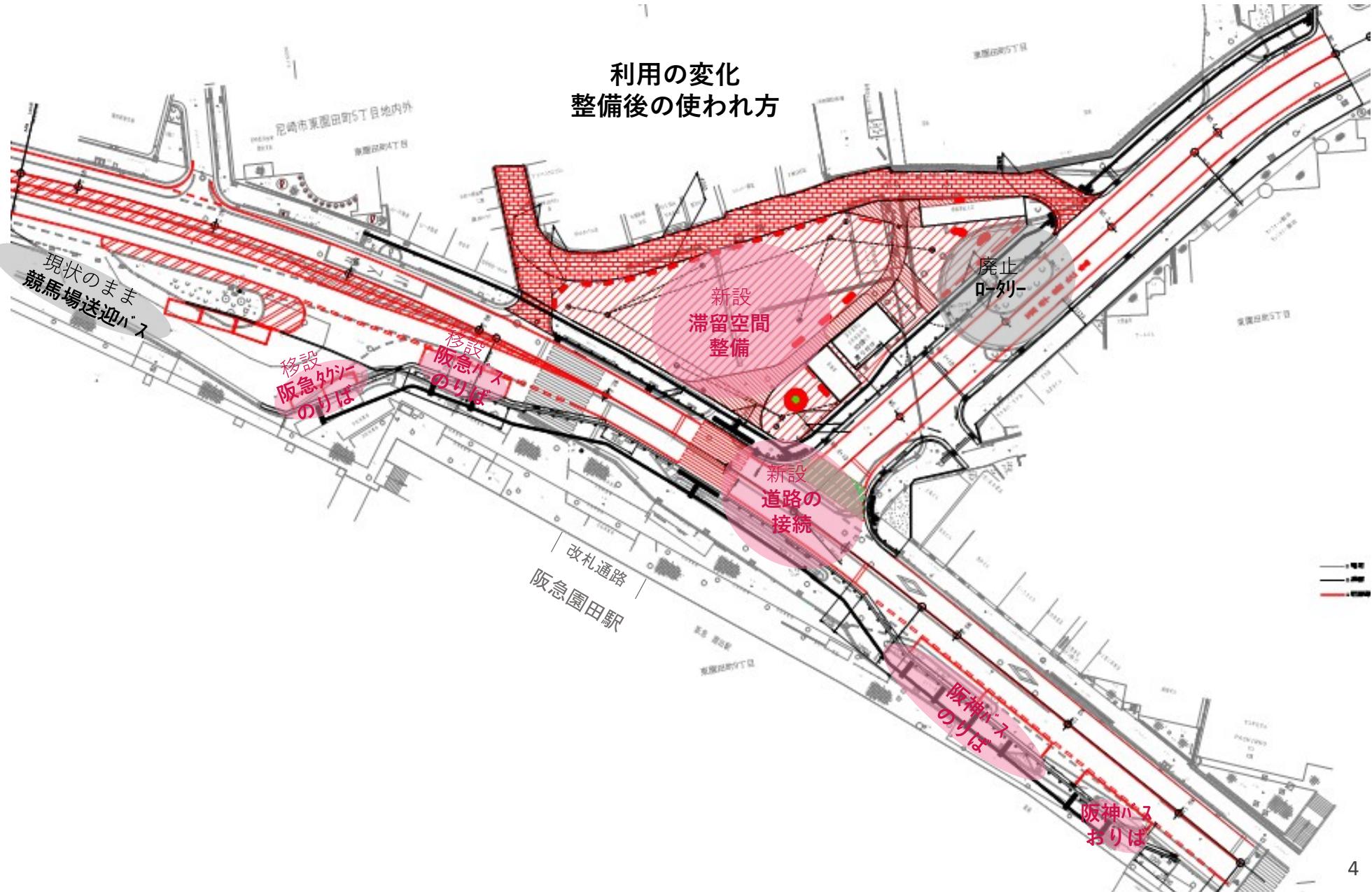
目的 駅周辺の交通混雑の緩和及び駅北側エリアへのアクセス円滑化

- ・都市計画道路事業とは、都市計画に位置付けられた道路を整備する事業。
- ・都市計画道路を整備する事業として、事業費の1／2に国土交通省の社会資本整備総合交付金を充て、事業を実施。
- ・そのため、今回の事業で整備する範囲は全て道路の扱いとなる。



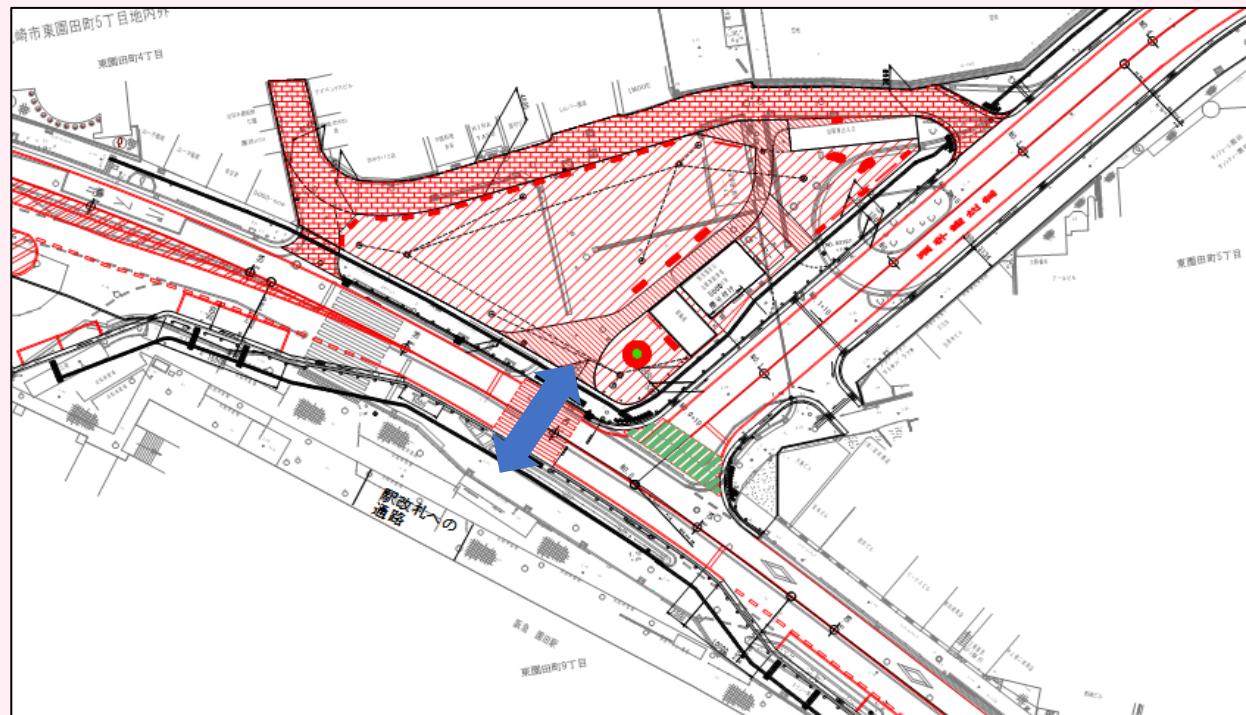
利用の変化 現状の使われ方





これまでの経緯

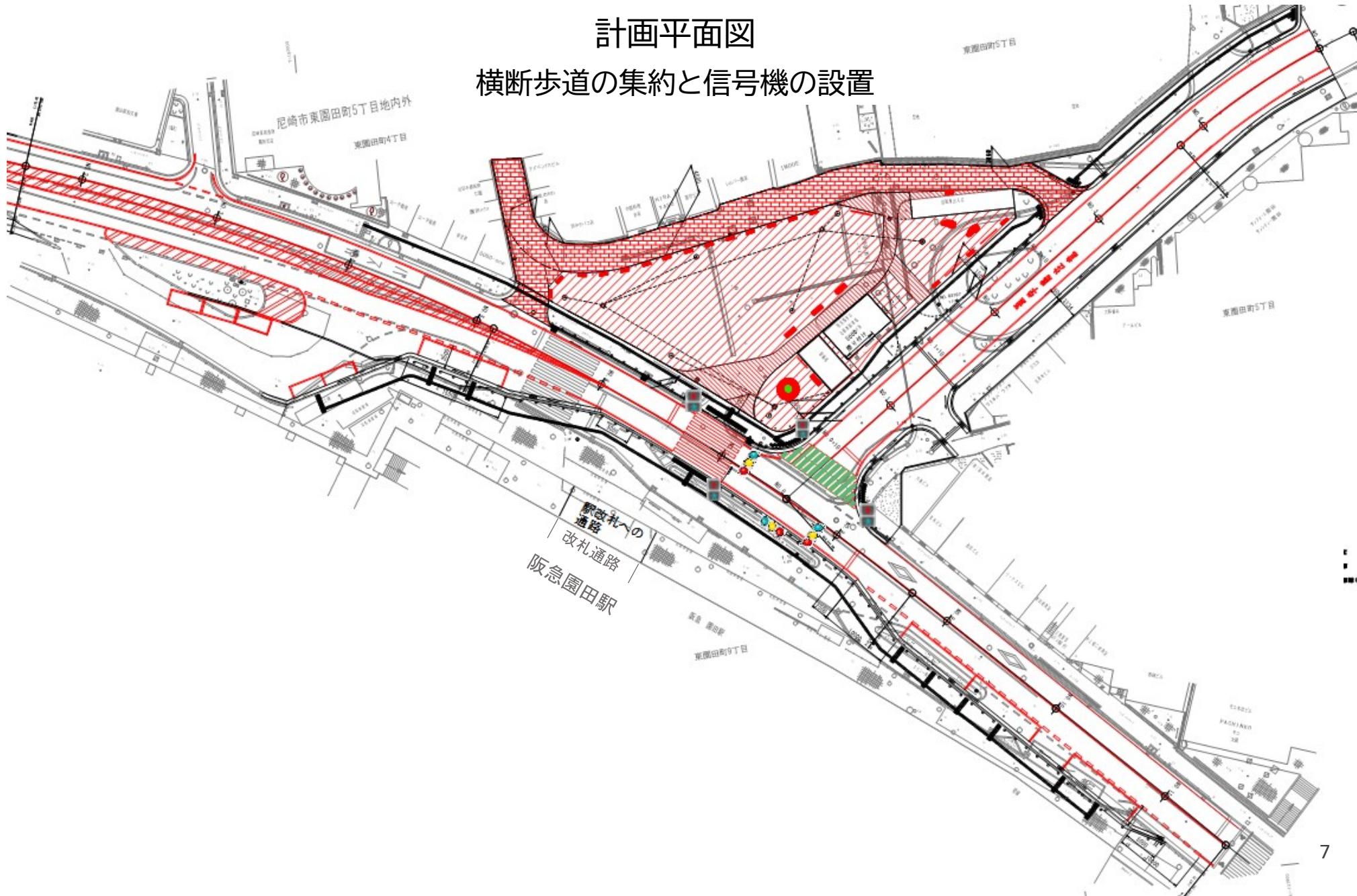
第1回説明会	丁字路の交差点、信号機の設置はされない計画を提示 →新設交差点の安全性を確保するため信号機の設置に関する参加者意見があった。
第2回説明会	警察同席による説明会を実施。信号機が設置されない理由を説明 →第1回同様、信号機の設置に関する参加者意見があった。
第3回説明会 (前回)	信号機設置を目標に警察と協議を進めることとし、信号機が設置されるまで園田豊中線は開通しない方針を説明し、地域の賛同を得た。
第4回説明会 (今回)	第3回説明会で示した方針通り、信号機の設置等による新設交差点の安全性対策がされるまで、園田豊中線は開通さず、継続的に協議を進める。 ただし、現状のままでは管理上好ましくないため、整備できるところから工事を行う。

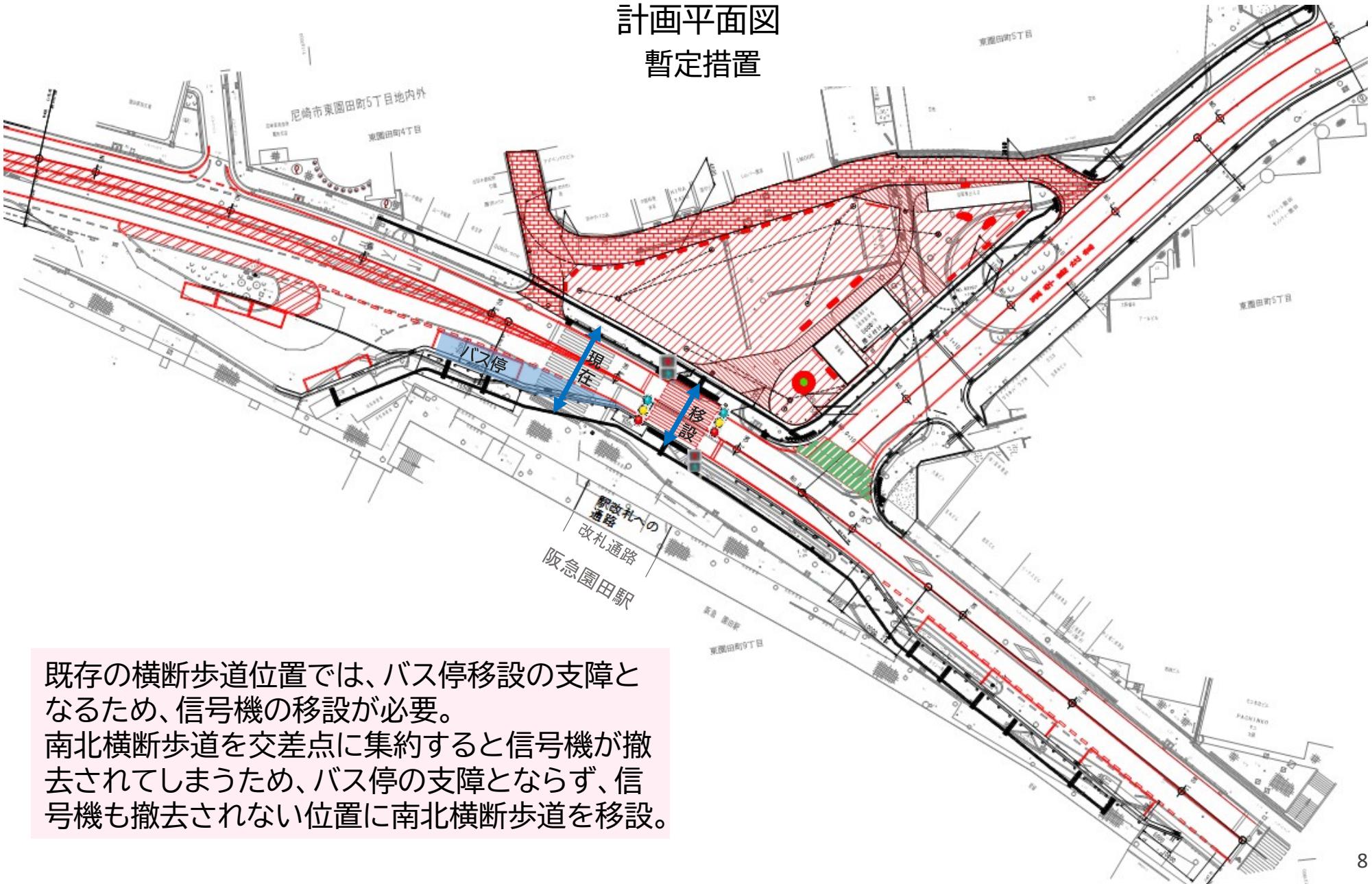




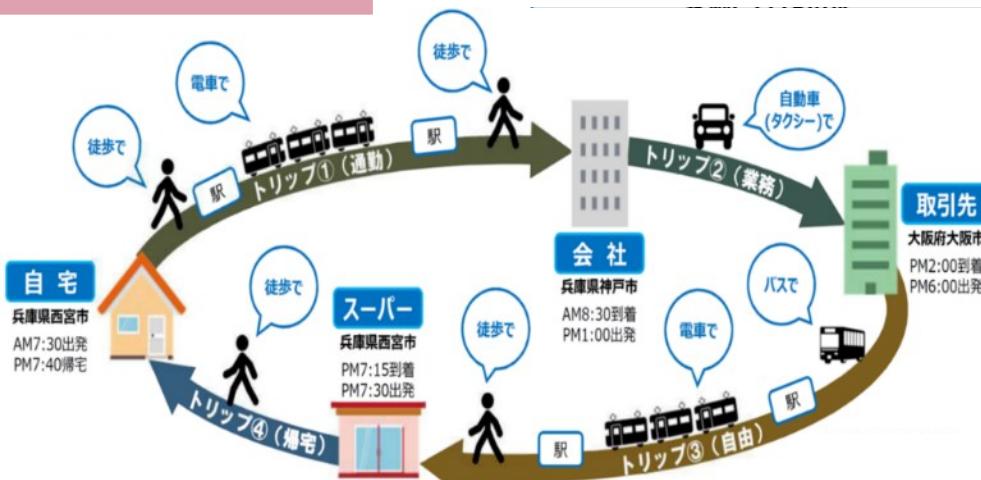
計画平面図

横断歩道の集約と信号機の設置



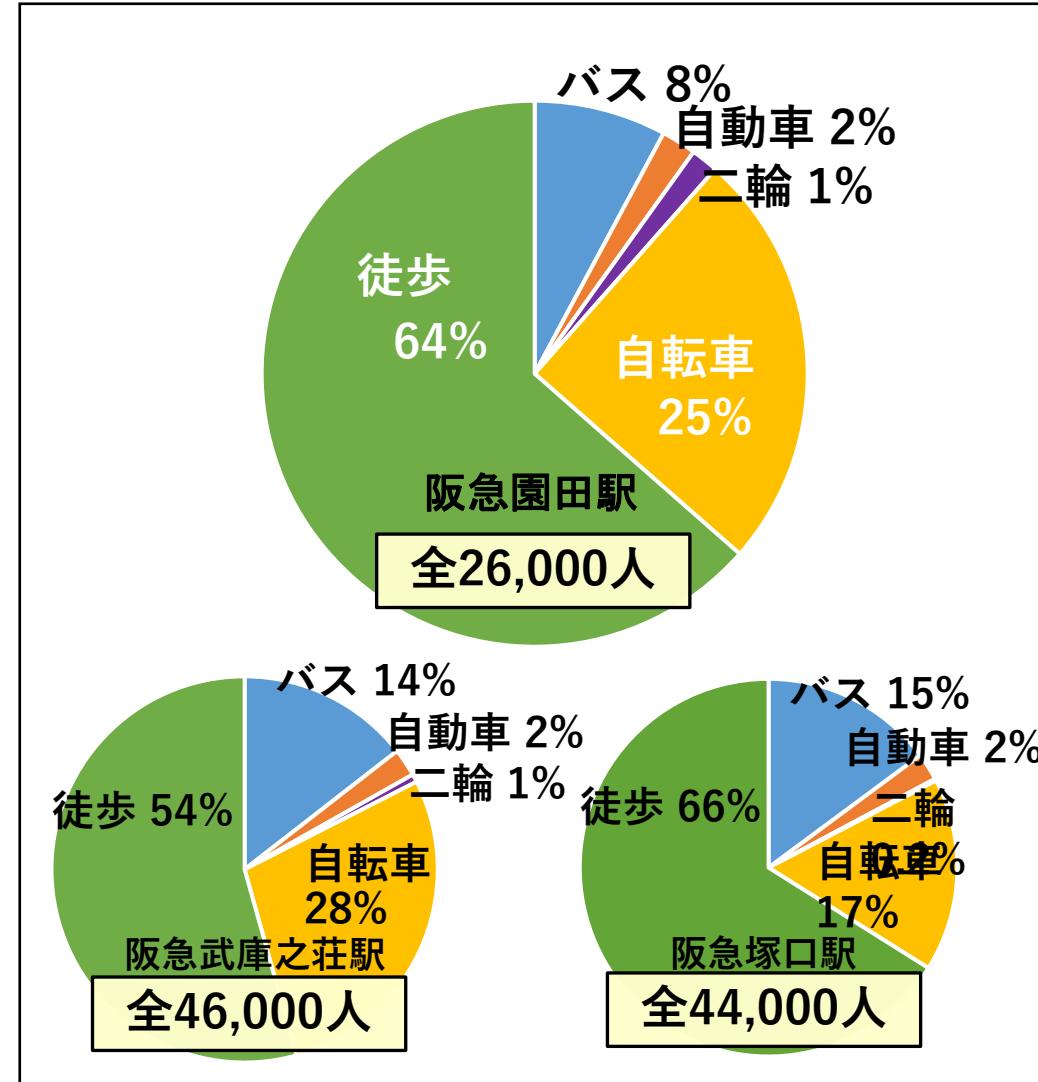
計画平面図
暫定措置

パーソントリップ調査

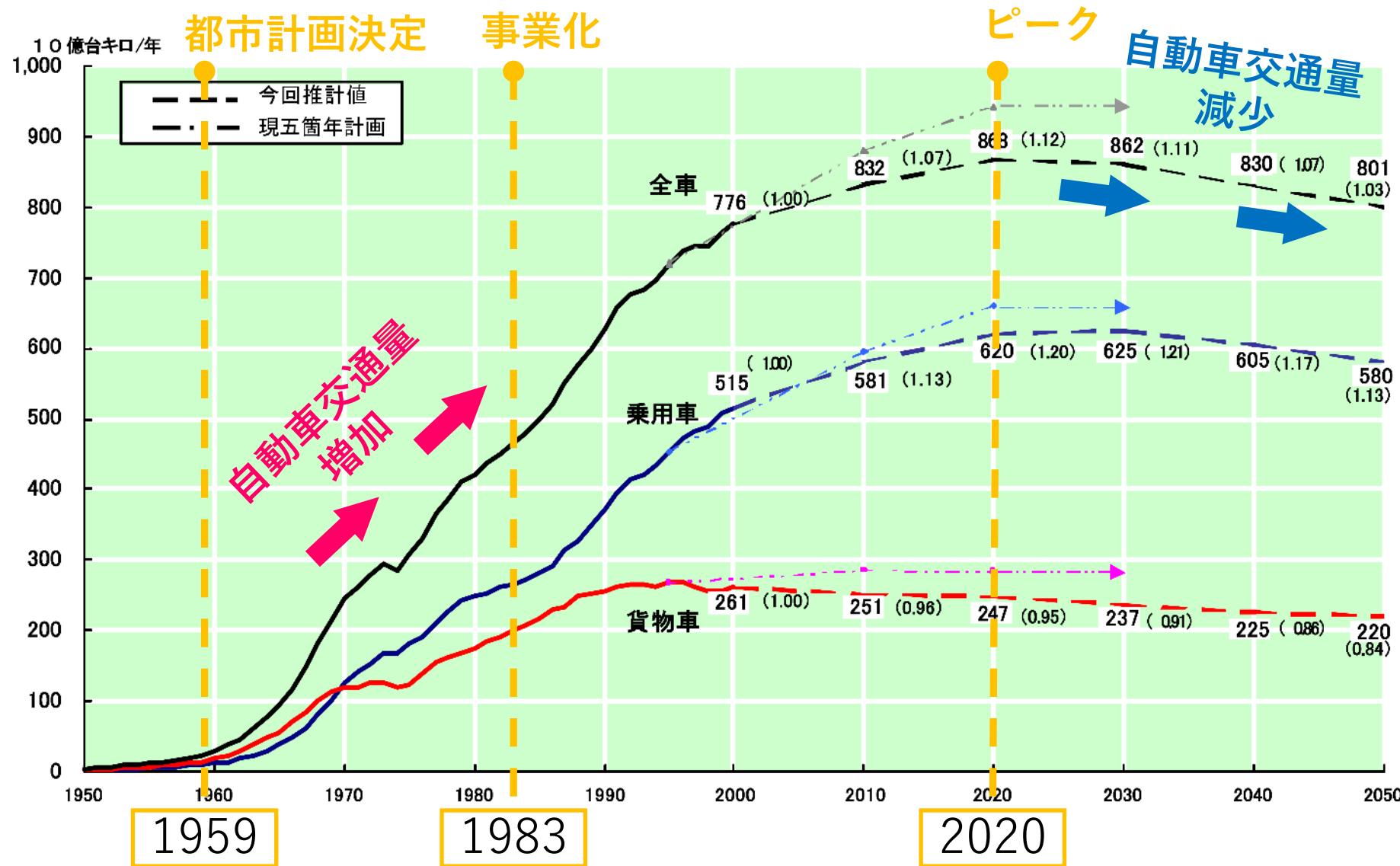


阪急園田駅前の特徴

- ・駅北側横断歩道の歩行者交通量が多い。
 - ・駅利用者のうち、徒步による利用者が全体の約64%を占めている。
(自転車は全体の約25%)

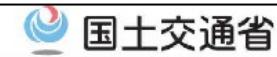


出典：H22近畿圏パーソントリップ調査（京阪神都市圏交通計画協議会）



出典：交通量推計結果のまとめ（国土交通省）

1.道路の基本的な役割



人・地域をつなぐ ~ネットワークの機能~

道路は人や地域を相互につなぎ、日常生活や観光等の人の移動と生活物資や農林水産品、工業製品等のモノの輸送を支えます。



広域的な移動を支える道路



日常的な移動を支える道路

地域・まちを創る ~空間の機能~

道路は、地域・まちの骨格をつくり、環境・景観を形成し、日々の暮らしや経済活動等を支える環境を創出します。



賑わいの場としての道路



ライフラインの収容場所としての道路

3

出典：道路行政の簡易解説（国土交通省）



整備イメージ

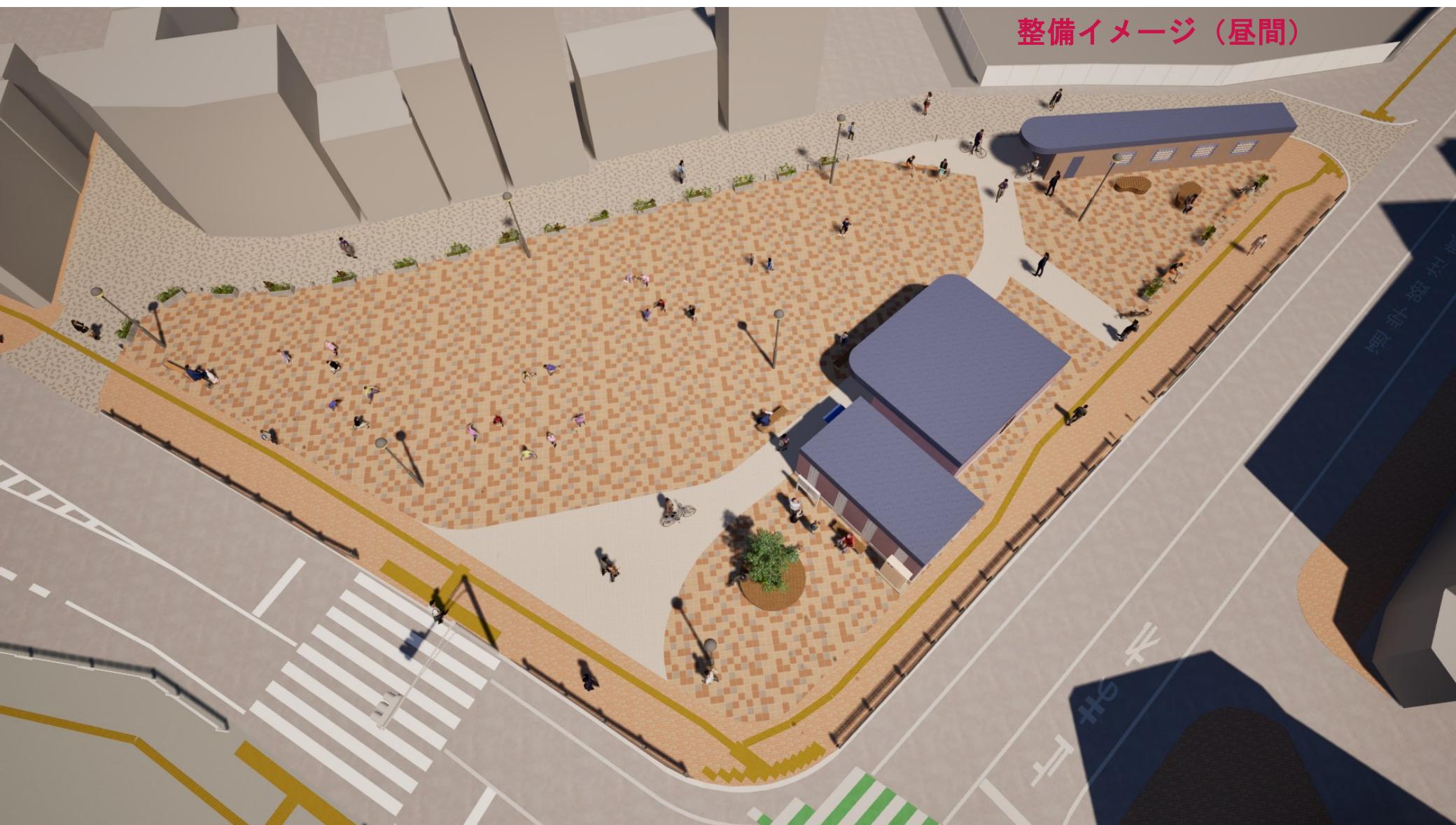




整備イメージ



整備イメージ（昼間）

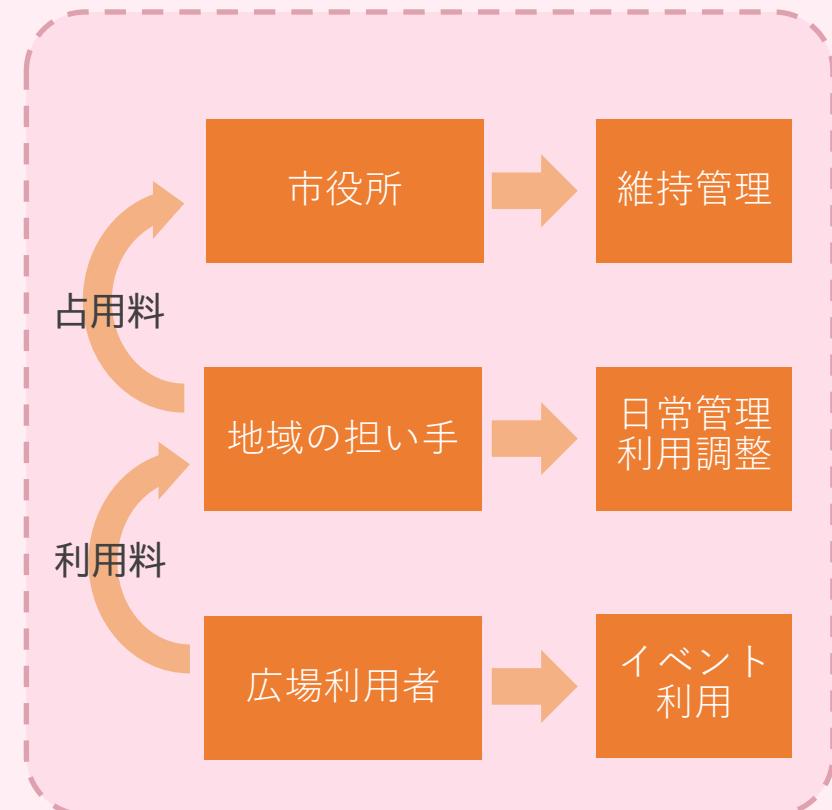




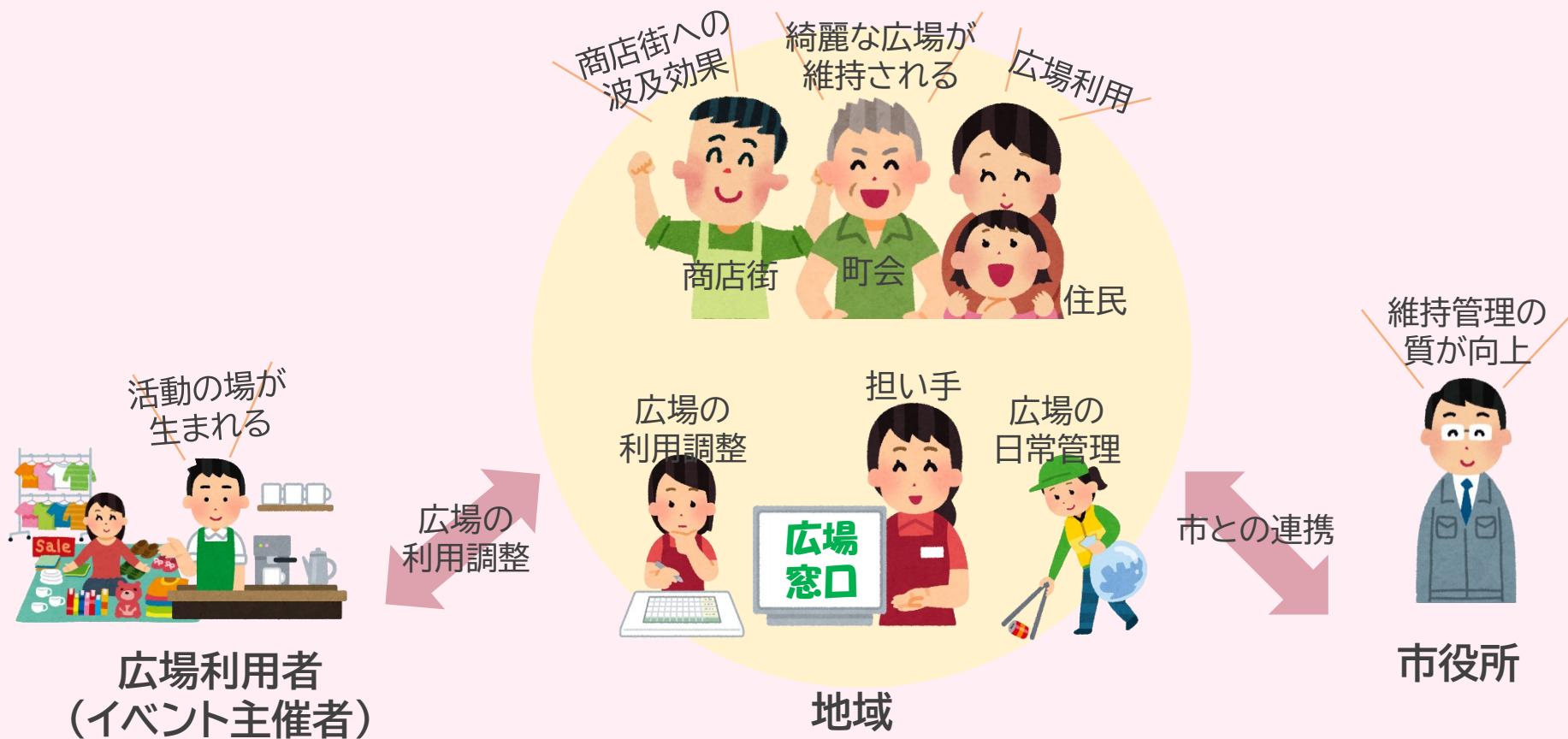
整備後の管理について

整備後の運用について

- ・道路整備完成後、維持管理を続けていくにあたり、従来通りの市による管理に加え、地域の担い手による日常管理を行うことで、良好な状態を恒久的に維持したい。



整備後の運用について

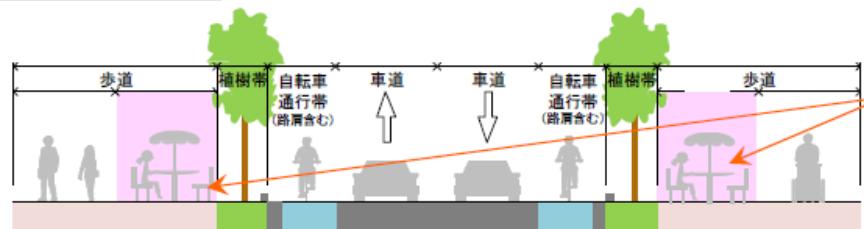


運営の手法

歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)

道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにする制度

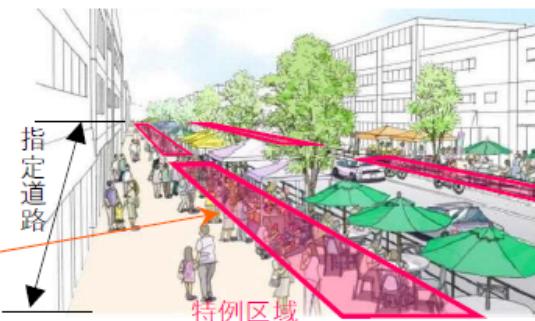
制度のPoint



Point①
歩道等の中に“歩行者の利便増進を図る空間”を定めることが可能

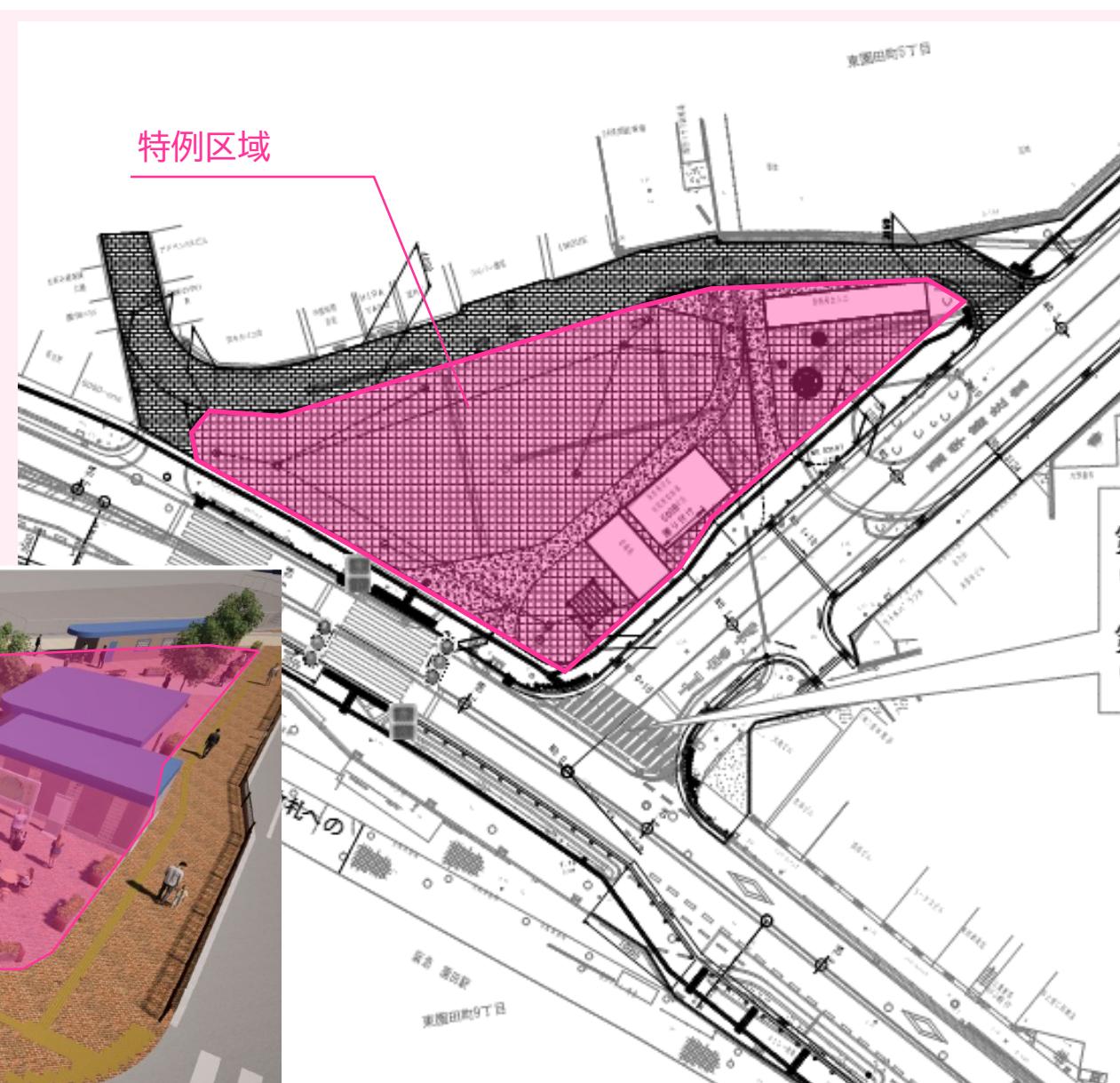
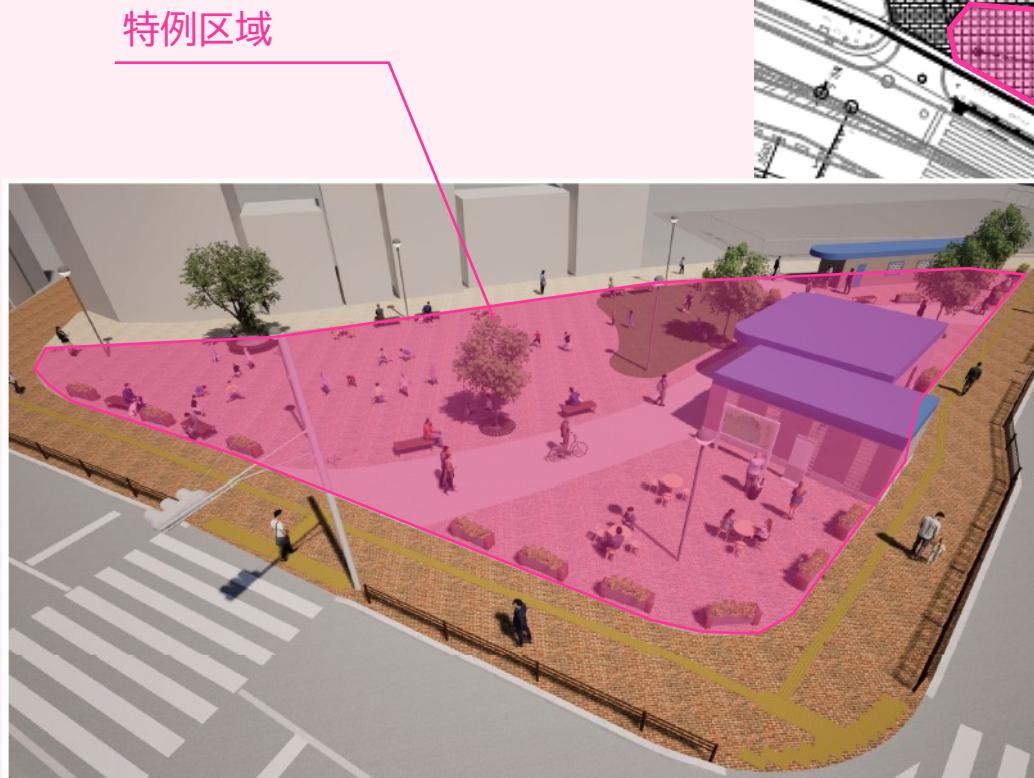
Point②
特例区域では道路空間の活用を柔軟に許可

Point③
道路空間を活用する者の公募による選定が可能
その場合、最長20年の占用が可能



ほこみちの範囲

北側道路や商店街へ向かう道路、
道路沿いの歩道部分は通行空間
とし、それ以外の範囲を特例区
域とする。(ピンク着色の範囲)



スケジュール

	R7年度	R8年度	R9年度
工事	工事①	工事②	信号設置に向けた警察との協議
利活用	ほこみちの検討、試行運営		ほこみち開始

